

◆当面の重点作業について

1. 各品種の適期収穫に努める。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！
2. 秋季剪定の適正実施。(切り過ぎ注意) 優良品種への更新及び苗木作りの芽接ぎ作業を実施。
3. せん孔細菌病・コスカシバ・カイガラムシ類の薬剤散布徹底と、枝病斑除去を行い、来年の被害軽減に努める。

◆礼肥の施用について

施用時期	肥料名	施肥量	実際施用日記入
9月中旬	有機専科	10a当り2袋	月 日

※樹勢に応じて増減させる。

※ネクタリンは2割ほど多めに施用する。

【もも・ネクタリン薬剤防除】

◆カイガラムシ類対策特別薬剤散布について

1. 散布時期：川中島白桃・黄金桃等晩生種収穫終了直後

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：5000l以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネク 収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—	—
コルト顆粒水和剤	2,000倍	50g	前日	前日	カイガラムシ類

3. 散布上の留意事項

- 1) 枝・幹部にムラの無いよう、薬液を掛ける事が大事です。できるだけ手散布で丁寧に実施する。
- 2) ボルドー液との混用散布はできない。散布タイミングもあわない。
- 3) 収穫中の品種に散布する場合は、散布後24時間収穫できない。

◆第11・12・13回並びに特別薬剤散布について

1. 散布時期：

1回目⇒	9月16日(水)～9月20日(日)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>実際散布月日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> </table>	実際散布月日	月	日
実際散布月日	月	日			
2回目⇒	9月30日(水)～10月4日(日)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>実際散布月日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> </table>	実際散布月日	月	日
実際散布月日	月	日			
3回目⇒	10月14日(水)～10月18日(日)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>実際散布月日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> </table>	実際散布月日	月	日
実際散布月日	月	日			
4回目⇒	10月28日(水)～11月1日(日)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>実際散布月日</td> <td>月</td> <td>日</td> </tr> </table>	実際散布月日	月	日
実際散布月日	月	日			

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000l当り・10a当り散布量：5000l以上

<1回目>

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネク 収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオンE	1,500倍	66ml	—	—	—
フェニックスフロアブル	4,000倍	25ml	前日	前日	コスカシバ
ICボルドー412	33倍	3kg	—	—	せん孔細菌病

< 2・3・4回目 >

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネク タリン 収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオンE	1,500倍	66ml	—	—	—
I C ボルドー 412	33倍	3kg	—	—	せん孔細菌病

3. 散布上の留意事項

- 1) 散布予定日頃に台風等が接近し、強風降雨がありそうな場合は、早めに散布する。
葉が落ちた痕や擦れた傷口から感染する前に予防する。
- 2) 散布間隔が14日以上空かないよう注意する。
降雨・風雨が多い場合は、散布間隔を10日程度とし実施する。
- 3) 樹脂を取り除き、樹全体(特に主幹・主枝等の太枝)を洗うように手散布で丁寧に散布する。SSを使用する場合は、SSを止めて地際部などを薬液がしたたり落ちるくらい補正散布する。
- 4) 実施前に徒長枝等を整理し、薬液が枝までよく掛るようにしておく事が重要。
- 5) 天候のよい日を選び、散布むらのないよう丁寧に散布する。
- 6) コスカシバ食入防止のため、主幹・主枝にしっかりと掛ける。
- 7) ももは、I C ボルドー 412に代えて登録がある4-12式ボルドー液(水1000当り生石灰1,200g + ⑩硫酸銅 400g)又は、I C ボルドー 66D50 倍(水980当り2kg)を使用してもよい。
- 8) ネクタリンは登録がないので、4-12式ボルドー液及びI C ボルドー 66Dは使用できない。
6-6式ボルドー液は、もも・ネクタリン共に登録が無いため使用できない。
- 9) 2・3・4回目に限り、I C ボルドー 412に代えてムッシュボルドー DF500 倍(水1000 当り 200g)を使用してもよい。(薬害があるため、1回目には使用しない)
- 10) アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水1000 当り 33 ml)を使用してもよい。この場合、ボルドー液を混用した後にK. Kステッカーを調合する。

4. 収穫中の品種、極晩生種への対応について

- 1) 収穫中・収穫直前・除袋後の品種に掛からないよう実施し、特に混植園や隣接園は注意する。
- 2) 収穫終了後には、早急に必ず散布を実施する。
- 3) 除袋前のもも極晩生種で、除袋後や袋が破けているものは、汚れるため散布できない。

◆せん孔細菌病の病斑（伝染源）除去の実施について

本年伸びた新梢に発生をする夏型枝病斑の発生がある。

はじめ紫赤色の病斑だが、ひろがるにつれて紫黒色になってへこみ、枝に沿って縦長の病斑を形成する。

夏型枝病斑から、飛散した病原菌は、当年枝の皮目や落葉痕などで越冬して当年の伝染源になるため、これも剪除する。

特に、本年果実や、葉に感染が見られた付近を良く見て作業を行う。ボルドー液散布前に実施する。散布後は見つけにくい。



◆果実腐敗病（灰星病等）被害果実の処分について

園地（樹上・地表面）に被害果実を放置すると、翌年への越冬源になり、菌密度を高め、翌年の発生を助長する。このため、被害果実は放置せず、土中深く埋めておく事が重要です。必ず実施し、翌年の被害軽減に努める。また併せて落果した桃の処理も速やかに行う。匂いの苦情が出ています。

◆そ（削）ぎ芽接について

系統の良いものが各自の園又は地域にある、収益性の低い品種・系統は、そぎ芽接により更新を図る。時期は、9月上中旬頃がよい。詳しい実施方法は、果樹技術員まで。なお、種苗法を順守する。

◆秋季剪定・礼肥施用・せん孔細菌病対策講習会開催について

下記日程により開催しますので都合のよい会場へ参加ください。

なお、講習会前及び川中島白桃収穫終了後より、秋季剪定を開始してよい。

開催日	曜	時間	開催場所	担当
9月 8日	火	午前 9 : 3 0	篠ノ井小森 宮本芳樹様園	外谷
			松代西寺尾 五明秀樹様園	伊藤
			若穂 若穂宮農資材センター	寺澤
		午前 1 1 : 0 0	篠ノ井上組 島田 栄一様園	外谷
			川中島今里 今里公園集合	松橋
		午後 1 : 3 0	篠ノ井 東横田公民館集合	徳武・伊藤
			更北真島中真島 宮澤雄彦様園	根津
		午後 2 : 0 0	篠ノ井中沢 北村政一様園	外谷
			川中島 中津北原 飯島 いえ様園 (川中島農機具センター北) ※果樹研究会川中島支会と共催	松橋
		午後 3 : 0 0	篠ノ井塩崎 岸田公夫様園	徳武・伊藤
			更北真島梵天 小山慎吾様園	根津
9月 9日	水	午後 3 : 3 0	川中島御厨 林今朝広様園	松橋
		午後 1 : 3 0	篠ノ井西寺尾 杵淵火の見	外谷
		午後 3 : 0 0	旧西寺尾西支店 倉田健治様園	外谷

◆もも「スイートリッチ」生産振興について

J Aでは、令和7～9年度振興計画として、もも「スイートリッチ」の一定量（面積）拡大を図っています。

1. もも「スイートリッチ」とは

- 1) 管内では、すでに植付がされており、出荷も始まっている。
- 2) ワッサーの仲間で、早生ワッサーとワッサーをつなぐ、中ワッサー。
- 3) 大きさは18玉程度で、糖度が高めで、ワッサーの中で食味が良い。
- 4) 降雨が多いと、果面ヒビ割れを発生しやすく、ワッサーの仲間では、作りづらい。また、なつこと、収穫期が重なるため、労力分散が必要になる。（※なつっこは、減少させない必要がある）
着果管理を徹底しないと、小玉になり、販売単価が低下する。
- 5) 食味が良いため、実需者の評価も高く、一定の需要が見込まれている。当J Aでは、販売先を決めて、取り扱いをしている。

振興品種には、ワッサーは計画してきていないが、今回、需要増加が見込める「スイートリッチ」のみ振興計画を予定している。

2. 苗木注文について

苗木生産量が少ないため、苗木業者へ事前に苗木生産をお願いする事といたします。

苗木注文については、「果樹総合情報No.果樹生産振興」をご覧ください。